

聖学院の保健体育

【体育】

様々なスポーツ活動を通して経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の育成と、「生涯スポーツ」に親しむ姿勢や態度の育成を目標とする。

「社会人基礎力」とは、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用し、「多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」を指し、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」で構成される。聖学院のスポーツ活動では、その3要素を育てられるよう教員がしかけを用意し、積極的に主体的に授業に参加し、スポーツの得意・不得意に関係なく活躍できる生徒を育てる。

中学3年間を「基礎」ととらえ、到達目標として、「スポーツコミュニケーション」（誰とでも認め合い、協力することができるようになる）、「ヘルスリテラシー」（日常生活の中にスポーツ実践を取り入れ、活動的なライフスタイル行動者となる）を身につけ、「社会人基礎力」の下地を作る。高校3年間は「発展」ととらえ、到達目標として、発展的なスポーツ活動を通して、社会人基礎力の育成と生涯スポーツの下地を身につける。聖学院らしい「インクルーシブな教育」（スポーツが得意・不得意関係なく誰でも認め合う環境をつくり）を実践できるよう、「ユニバーサルデザイン」（視覚情報を増やすなど、誰にとってもわかりやすい授業）にも配慮してゆく。

具体例) 授業展開

- 1) 挨拶・出欠確認
- 2) 事前指導（安全面の確認、チームづくり、チームでの作戦会議・役割確認など）
- 3) 準備運動
- 4) スポーツ活動
- 5) 片づけ・振り返り

【保健】

社会生活を送る上で生活に関係する身につけなくてはならない知識を身につけることを目標とする。

ただ座学での知識の詰め込みではなく、ある時は体験を通して、ある時は映像を通して生徒にリアリティを持たせることで本当に必要なものを確実に身につけさせる。自我の確立する高校1年生次から2年次に本格的な保健授業を配置し、「自分とは何か？」に気づかせていく要素となるよう授業展開する。特に重点項目は「生涯を通じる健康・ヘルスプロモーション」「性教育」「心肺蘇生・応急手当」「喫煙・飲酒」「食事・運動」である。